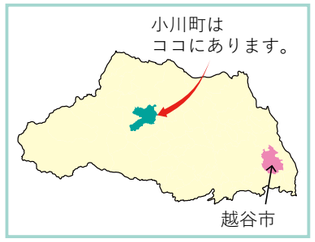
伝統的な技術を生かすまち　小川町

つかむ

小川町や和紙に関係した写真や資料を、見て気づいたことや考えたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。



小川町の位置

小川和紙でつくられた和紙の製品

紙すきの体験

埼玉伝統工芸会館

和紙のふるさと小川町

I love ものづくり 和紙

とも子さんたちは、小川町の和紙の写真や資料を見ながら、気づいたことを話し合いました。

「和紙でつくられた製品がいろいろあるのね。どのようにつくられているのかな。」

「和紙は何からつくられているんだろう。」

「小川町ではどうして和紙がつくられるようになったのかな。」

学習問題

小川町では、なぜ和紙づくりがさかんになり、どのようにして受けつがれているのでしょうか。

和紙の原料となる「こうぞ」

調べる

小川町の和紙づくりがさかんになったのはなぜでしょうか。

和紙のれきしや材料を調べてみよう。

紙すき

和紙は、どろどろにとけた原料を「す」という道具ですくってつくります。このように、和紙をつくることを「紙すき」といいます。

小川和紙のはじまり

埼玉県には、昔から受けつがれてきた様々な伝統的な産業があります。小川町で、和紙づくりが始まったのは、およそ1300年前のことです。

およそ300年ほど前、小川町は、人口の多い江戸や川越に近く、紙が多く使われるようになったことで、紙すき工房がふえていきました。また、和紙の原料となる「こうぞ」が近くの村々でたくさんつくられ、たくさんの水を必要とする和紙づくりには山から流れる清流がてきしていました。

こうして、小川町は、和紙の産地になりました。

小川和紙年表

年	できごと
774年	正倉院文書に記録が残る
1800年代	江戸で和紙が使われる
1949年	「小川町七夕まつり」がはじまる
1978年	小川の和紙が国の重要無形文化財に選ばれる
1999年	小川町和紙体験センターができる
2014年	「細川紙」の手すき和紙の技術がユネスコ無形文化遺産に登録される

槻川

小川町、和紙づくりの工房

和紙工場360度見学

調べる

小川和紙は、どのようにつくられているのでしょうか。

和紙づくりの様子を見学してみましょう。

①ちり取り

せんいの傷や節、よごれなどを手でていねいに取りのぞきます。この作業が紙のよしあしを決めます。

②こうぞ打ち

せんいをやわらかくするために、機械でたたきます。

とろ投入

③紙すき

ふねとよばれる「すきぶね」で紙をすきます。

天井から下がったひもにくふうがありそうだね。

④カンダしぼり

すき終わったら「けた」から「す」を外し、「す」にろかされた紙を紙床にうつします。このとき、先に重ねてある紙との間に空気が入らないように注意します。この状態で、しめった紙をしぼっていきます。

⑤紙干し

ふだんは、あついボイラーを使って紙をかわかします。しかし、紙によっては、広い庭で天日（日光）でかわかすそうです。

天日でかわかすことで紙は白さをましていきます。

昔の紙づくりの手順

伝統を守り、生かそうとする人々

調べる

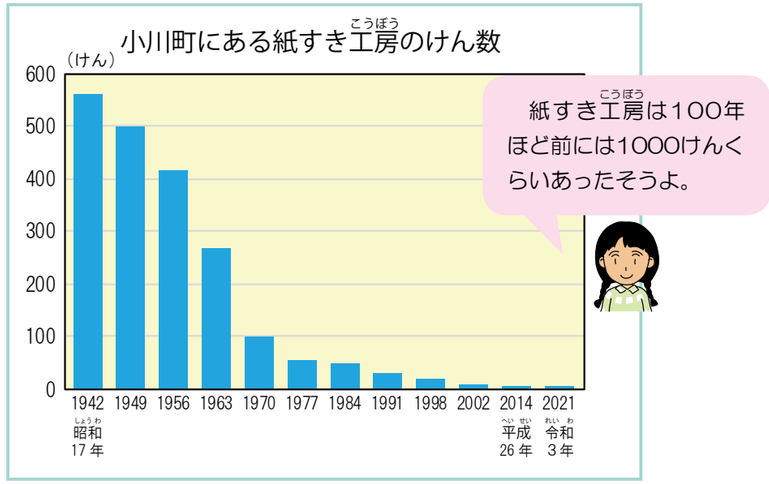
和紙づくりの技術は、どのようにして受けつがれているのでしょうか。

細川紙

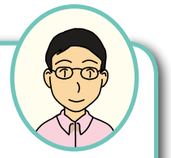
小川の和紙の中で、もっとも有名な紙で、じょうぶな手すき和紙です。2014年11月27日、日本の手すき和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されました。細川紙の技術も登録されています。

ユネスコ無形文化遺産

ユネスコのそう会でさいたくされた「無形文化財保護条約」にもとづいて登録される世界的にかちの高いとされる芸のうの伝しょう、社会習かん、ぎ式や祭礼、伝統工芸技術などの無形文化財です。



小川町工業組合の人の話



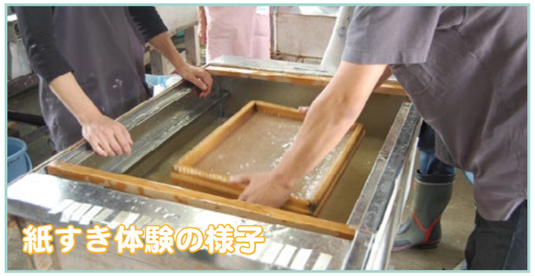
小川町にある紙すき工房は、全部で6けんです。東秩父村や都幾川地区にもあります。

地いきで力を合わせて伝統を守るためにがんばっています。多くの人に、和紙製品を使っていただけるとうれしいです。

小川町和紙体験学習センターの人の話

昭和53年に国の大切な文化ざいに選ばれ、紙すきの技術が見直されるようになりました。埼玉伝統工芸会館や和紙体験学習センターがつくられ、小川和紙の伝統のわざを受けつぐため、さまざまなイベントや新製品の開発につとめています。

小川町和紙体験学習センター


紙すき体験の様子

センター内の様子

紙すき名人にインタビュー

和紙の原料は何ですか？

和紙の原料は、主に「こうぞ」です。国産のものは少なくなってきていて、外国から仕入れています。

国産のこうぞ

よい和紙づくりのひみつは何ですか？
和紙づくりの苦労や願いも教えてください。

和紙のある食卓のてい案

寒くて、水が冷たいときほど、よい和紙ができます。使う人に喜んでもらえるように、1まい1まい心をこめて和紙をすいています。

紙は、使ってもらってこそ生きてくるので、新しい時代に合わせて、お客様の気持ちを考えながら、商品をつくっています。

≪小川町で行われるさまざまなイベント≫

小川町七夕まつり

毎年7月に行われます。小川和紙をふんだんに使った七夕飾りが特ちょうです。竹かざりコンクールも行われ、見に来る人々を楽しませています。

小川和紙マラソン大会

毎年12月に行われます。緑と清流にかこまれた、れきしある小川町の中をランナーが走りぬけます。太鼓での応えんや豚汁でランナーをもてなします。

小川和紙フェスティバル

毎年11月27日の小川和紙の日を記念して行われます。体験コーナーや作品展などのイベントでは多くの人が和紙にふれることができます。